

平成30年度 学校評価計画

小美玉市立堅倉小学校 校長 稲田 雅志

1 学校教育目標

確かな学力と豊かな心をはぐくみ、たくましく生きる児童を育てる
かしこく なかよく たくましく

2 目指す学校像、児童・生徒像、教師像

学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○明るく笑顔に包まれた温かな学校 ○意欲と活力に満ちた躍動する学校 ○美しく整い、品のある学校 ○連携を大事にする学校（地域・幼・中）
児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○話をよく聞き、よく考え、よく学ぶ子 ○礼儀正しく、心のやさしい子 ○夢や目標をもち、努力する子 ○体を鍛え、明るく元気な子
教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○笑顔で明るく、自主性に富む教師 ○夢や理想をもち人間性豊かな教師 ○一人一人のよさを伸ばそうとする教師 ○子どもの成長を共に喜ぶ教師

3 学校の現状

- 明るく活発な児童が多く、児童会を中心とした「堅倉しぐさ」の取り組みを通して、基本的な生活習慣や規範意識も高まりつつある。家庭学習の習慣も身に付きつつあるが、学年や教科でのばらつきが見られ、学力面で課題のある児童の割合が高学年になるほど高い。
- 教職員は各自の役割を意識し学校運営に積極的に参画している。更に学年間や校務分掌間での連携を深めていく必要がある。校内研修体制も充実し、授業改善が進みつつある。
- 保護者の多くが本校の卒業生であり、学校に対し協力的である。恵まれた学習環境を生かしながら、校舎内外の環境整備に継続して取り組んでいる。

4 前年度の成果と課題

- 授業力ブラッシュアップ研修の協力校として、また、学び合いの研修を通して授業改善に取り組んできたことで、授業力も向上しつつある。しかし、県学力診断のためのテストの結果を見ると、特に算数で学力の2極化の傾向が出てきている。児童の考えを引き出す発問や板書構成等を工夫し、身に付けた知識や技能を生活の中で活用する力を向上させることが課題である。
- 道徳や特活を中心に互いのよさを伸ばす指導を重視してきた。学校が楽しいと回答する児童の割合が92.1%と高く、児童の自己有用感や達成感等も高まりつつある。あいさつや返事に課題が見られ、家庭や地域の協力を得ながら、実践力を高めることが課題である。
- 学校日より等の発行と併せて、毎日HPの「学校ニュース」を更新し、児童の活動の様子をタイムリーに届けることを心がけてきた。親子会議も年間5回行われ、毎回95%以上の回収率を保っている。学校支援ボランティアについても、学校のニーズに合わせて計画的に協力いただいているが、共働きや高齢化もあり、人材の確保が課題になっている。

5 組織目標

番号	内 容	実 施 期 間				
		29	30	31	32	33
1	「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を通して、質の高い学びを実現し、学力の向上を図る。	○	○			
2	豊かな人間関係づくりと心の教育の充実を図るための教育活動を推進する。（道徳・特別活動・読書活動）	○	○			
3	保護者・地域との連携による魅力ある開かれた学校づくりを推進する。	○	○			

平成30年度 学校自己評価書
小美玉市立堅倉小学校 校長 稲田 雅志

1 今年度の取り組みの概要

- 確かな学力の向上（基礎・基本の定着 学習規律の徹底 学習習慣の定着）
- 主体的・協働的な学びの充実（授業研究を通じた授業改善 学習支援ボランティアの活用）
- 豊かな人間関係と心の教育の充実（自主性・自立性を育む特別活動の充実 読書活動の充実）
- 健康・体力の向上（体力アップ推進プランの目標達成 業間運動の充実）
- 信頼される学校づくり（保護者や地域との双方向による情報発信 コンプライアンスの確立）
- 教職員の資質・能力の向上（OJTを活用した研修の充実 授業研究を中心とした指導力向上）

＜達成度 A：十分に達成 B：おおむね達成 C：達成せず D：課題が残る＞

◎ 達成目標 1 についての具体的な取り組み

組織目標 1	「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を通して、質の高い学びを実現し、学力の向上を図る		
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
他と関わりながら考えを深め、表現する活動の充実を図り、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学び合い・伝え合う活動を重視した授業づくり ・ 専門性を生かした教科担当制の実施（社・理・音・体） ・ TTによる指導やICTの活用等による個に応じた指導の充実（算・総合） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中、分からないことがあったとき、「分からないから教えて」と言えると回答した児童の割合 87% ・ 授業では、グループの話し合いに積極的に参加していると回答した児童の割合 89% 	A
互いに信頼し合う、温かい人間関係づくりに基づく、指導法の工夫・改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミドルリーダーを推進役とした研究体制の確立 ・ 学年ブロックや研究部を中心とした指導案検討会や授業反省会等校内研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思考力や表現力を育てる授業作りをの推進状況 教師の達成状況 72% 	B

◎ 達成目標 2 についての具体的な取り組み

組織目標 2	豊かな人間関係づくりと心の教育の充実を図るための教育活動を推進する。（道徳・特別活動・読書活動）		
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
児童が自主的・自立的に活動を工夫し、楽しみながら協力し合って取り組む係・委員会活動、学校行事を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級での話し合い活動の充実と学級活動コーナーの設置。 ・ 発達段階に応じた自主的・自発的な係・委員会活動の推進。 ・ 異学年交流の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校が楽しいと回答した割合。 児童 89% 保護者 93% 	A
互いに相手の身になって考え、支え合い励まし合える心の居場所としての学級経営を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳や特活を中核にした人権教育の推進（言語環境の整備・堅倉しぐさ等） ・ 読書活動の充実（朝の読書や読み聞かせ・学校図書館の活用） ・ いじめアンケートの毎月実施。 ・ 帰りの会等で、互いの良さを認め合える場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気よく自分からあいさつしていると回答した割合。 児童 87% 保護者 80% ・ 進んで読書に取り組み読んだ本を記録していると回答した割合。 児童 71% 保護者 53% 	B

◎ 達成目標 3 についての具体的な取り組み

組織目標 3	保護者・地域との連携による魅力ある開かれた学校づくりを推進する。		
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
保護者や地域とのふれあいや、情報の双方向でのやり取りを通して信頼関係を深めるとともに、地域人材の活用を推進し、協働体制を固める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者等のニーズに応じた学校だより等の各種通信の発信。 ・ ホームページの定期的な更新。 ・ 学校支援ボランティアや地域人材の活用。 ・ 親子会議を通じた保護者との情報連携。 ・ 学校評価の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校は教育活動の様子について情報提供をしていると回答する保護者の割合 97% ・ 学校だよりを月2回発行する。地区への回覧実施。 ・ ホームページ「学校ニュース」の毎日更新。 ・ 親子会議を年間3回開催と結果等の情報提供。 	A

2 今年度の成果と次年度に向けた課題

- 研究テーマ「算数のよさを実感し、主体的に学ぶ児童の育成 ～課題提示と学び合いの工夫を通して～」のもと、学年ブロックを中心に校内研修を充実させ、全学級で年1回は授業公開を行った。学び合を意識した授業改善に取り組んできたことで、授業力も向上しつつある。授業では、授業中分からないことがあったとき、友達に「分からないから教えて」と言える児童の割合が87%であった。また、授業では、グループやペアの話し合いに積極的に参加していると回答した児童の割合は89%であった。しかし、茨城県学力診断のためのテストの結果を見ると、学年や教科でのばらつきが見られるとともに、特に算数で学力の2極化の傾向が出てきている。児童の考えを引き出す発問や板書構成等を工夫し、身に付けた知識や技能を生活の中で活用する力を向上させることが課題である。
- 「堅倉小学校版 家庭学習の手引き」の活用やパワーアップ週間の活用等により、家庭学習の習慣が身に付きつつある。家庭学習に決められた時間取り組んでいる児童の割合は83%であるが、学年によってばらつきが見られた。個人差に対応した家庭学習の進め方の指導や、授業中においても各教科のノート指導の充実が課題である。
- 支持的学級風土を基盤にした授業づくりと温かな人間関係づくりを学級経営の両輪と考え、道徳や特活を中心に互いのよさを伸ばす指導を重視してきた。学校が楽しいと回答する児童の割合が89%と、学校や学級が心の居場所と感じられる様子がうかがえる。特に、ふれあい祭りや縦割り班の活動では、6年生を中心に自主的・自発的な活動が多くみられ、児童の自己有用感や達成感等を高めるよい機会となっている。あいさつについては、校内では比較的できているが、保護者アンケートの結果等から課題が見られた。家庭や地域の協力を得ながら、学校外での実践力を高めることが課題である。
- 学校だより等の発行と併せて、毎日HPの「学校ニュース」を更新し、児童の活動の様子をタイムリーに届けることを心がけてきた。親子会議も年間3回行われ、毎回95%以上の回収率を保っている。学校支援ボランティアについては、共働きや高齢化もあり、人材の確保が課題になってきている。

3 保護者や地域の皆様へ

学校教育目標「確かな学力と豊かな心をはぐくみ、たくましく生きる児童を育てる」の実現に向けて、「授業改善を通して、質の高い学びを実現し、学力の向上を図る」「豊かな人間関係づくりと心の教育の充実」「保護者・地域との連携による魅力ある開かれた学校づくり」の3つ柱を立て教育活動を推進してまいりました。

一つ目の「授業改善を通して、質の高い学びの実現と学力向上」については、算数科を中心に授業の改善と充実を図ってまいりました。さらに校内研修を充実させ学力向上に努めてまいります。

二つ目の「豊かな人間関係作りと心の教育の充実」については、道徳の時間や特別活動、学校行事等、体験活動を重視してまいりました。今後も、互いの良さを認め合いながら、お互いを高めていける機会を大切に、豊かな心をはぐくんでまいります。

三つ目の「魅力ある開かれた学校づくり」については、ホームページの学校ニュースの毎日更新や学校便りを通して、積極的に情報発信するとともに、アンケートや皆様からの直接のご意見を生かした学校運営に努めてまいりました。

31年度も、保護者の皆様、地域の皆様の声を大切にしながら職員一同努力してまいりますので、今後ともご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。